

開創二十周年記念事業趣意書

この地に在った小庵を譲り受けて仮本堂を建てたのは今から十九年前のことであります。正にゼロからの出発でしたが、み仏の御加護と檀信徒の皆様の絶大なる御協力御支援により今日の盛栄を招来することができ、感激にたえないところであります。

思えば昭和五十七年に釈迦殿が完成して当寺は面目を一新し、翌年開創十五周年記念として釈迦殿本尊の脇仏の制作及び大般若經六百巻を新添し、五十九年には海外留学僧派遣育英会の設立、そして六十年より留学僧の派遣実施という数々の事業を展開し、今や当寺は国内外から注目を浴びております。

さて、明年は開創満二十周年に正当します。これは人間でいえば成人でありますので、この節目を記念して次の事業を実施し、今後さらに一段の進展を期する跳躍台としたい所存であります。

その事業の一環としてまづ昨年、不動殿身代不動明王の眷属けんぞく、矜羯羅こんがら、制咤迦せいたかの二重子像の

制作につき大仏師錦戸新觀先生を煩わし、十一月二十八日、開眼供養をおこないました。

今年秋には、不動殿にもつか制作中の大日如来が完成の予定であります。

次に、タイ国ワツワ・パクナムより釈迦牟尼仏の尊像をご寄付いたしましたので、大本山総持寺監院斎藤信義老師をお迎えして、去る四月一日に開眼供養を厳修いたしました。

さらに、宗祖を通して釈尊に還るという私の宗教信念にもとづき、「釈尊伝」を上梓して報恩行の一端としたい考えであります。

又、不動殿須弥壇、内陣増改築と境内の整備等をいたしたいと存じます。

就きましては、右記念事業展開のため、何卒協賛くだされ、淨財の御喜捨を伏してお願ひする次第であります。

維時 昭和六十三年六月吉日

善光住職 黒田武志
実行委員長 富永豊重

檀徒各位